

生物多様性部会 第5回会議で出された意見及び対応状況

頁	意見	対応	反映
ビジョン全体			
—	図の文字が小さいので、フォントを大きくするなど読みやすくすべき	左記のとおり修正	○
—	写真について、枠外に種名などの説明を入れるべき。また、サイズを大きく。	左記のとおり修正	○
—	各章の扉写真に解説を入れるべき 例えば「円山に残るカツラの巨木」	左記のとおり修正	○
第1章 はじめに			
2	写真（カッコー先生）：最初に出てくるところなので、何か意味を持たせたい。	写真を変更 ・風景：自然と都市の共存 ・カツラの巨木：過去からの生命のつながりや歴史性 ・アリとマユミ：多様な生き物の営みや生命のつながり	○
3	写真（札幌の自然） ・人工的なものの割合が高い。 ・同じようなものは避けて、春植物植生や防風林、湿地、田園風景など札幌の自然らしいものをセレクトした方がよい。 ・札幌の多様性を示すように各ゾーンを代表し市民に分かるものが良い。	写真変更	▲
4	「3つの多様性」の写真について ・生態系：円山など、文章に合った写真にするべき。 ・種：カタクリを出すのであれば、林床の下の群落の状況があるとよい ・遺伝子：オオルリオサムシでよいが、できれば標本でないものがよい。	写真変更 ※オオルリオサムシについては、3匹に絞って、色の変化を強調（自然のものは入手できず）	○
4	「春植物」という用語は、説明が必要	用語集に記載	○
5	「豊かな文化の根源」のイラストについて、札幌の歴史の中で昔から自然を利用した文化的なもので示せるとよい	写真に変更（アイヌ文化）	○
5	「すべての生命の基盤」のイラストは自然林に差し替えるなど、他のイラストも含めて工夫がほしい。	写真に変更	○

頁	意見	対応	反映
5	「遺伝資源」という言葉は分かりにくいので、理解できる言葉にできないか。	「遺伝資源」を削除	○
6	文章とイラストが繋がらない	写真に差し替え済み (札幌の豊かな自然中を親子が散歩。→親から子に豊かな自然を引き継いでいくイメージ。)	○
7	図1「世界の生物多様性に影響を与える私たちの生活」:文章とイラストが繋がらない	原案のとおり:本文中の「私たちの暮らしが世界の生物多様性にどのような影響を与えているか」に対応	
7	図1「世界の生物多様性に影響を与える私たちの生活」:矢印の出所を変に詮索されないようぼかしたりした方がよい。	矢印を削除	○
7	図1「世界の生物多様性に影響を与える私たちの生活」:携帯電話のイラストは輪郭をつけないと見づらい。 肉のイラストは森林破壊につながるということがイメージしづらいので、牛の絵にして森林が黒くなっているなど工夫してほしい。	左記のとおり修正	○
8	理念:「社会的基盤として活用を図り」が分かりにくい。 「生物多様性を共通に認識できるようにし、活性化に貢献します」という直接的な表現した方がよい。	文言修正 「多様な主体が生物多様性を活用して互いの対話や結びつきを広げ、まちづくりや社会経済活動の活性化に貢献します。」	○
8	写真は理念にふさわしいものにして枚数を減らしてでも大きくしてほしい。解説もほしい。	左記のとおり修正	○
第2章 ビジョン策定にあたって			
11	図3「環境保全・創造のための重点施策体系図(札幌市環境基本計画体系図)」:矢印の中の重点施策と番号は何を意味するのか、分かりにくい。	図を簡略化	○
12	— (コラム④のレイアウト変更に伴い、空いたスペース)	イメージ図(40年前と現在の大通公園)の追加 ・2050年(目標年次)まで約40年間という年月の長さを視覚的に表現することを意図したもの	○

※括弧書きの頁番号は、第5回会議時点の頁番号。

頁	意見	対応	反映
13(12)	コラム④の図4「愛知目標の概要」の文字を大きくする。	左記のとおり修正	○
14	図5「日本の生物多様性の状態」：図の意味が分かりづらい。	図のタイトル及び本文を修正 ・タイトル：「生物多様性の回復イメージ」 ・本文：国家戦略のグランドデザインに関する説明を記載	○
15	図6「札幌の周辺自治体との連携事例」：「札幌水源の森づくり」は、市内における国の機関との連携であり、周辺自治体との連携事例としてここで示すのは違和感がある。	事例及び本文を変更 ・事例：「茨戸川清流ルネッサンスⅡ地域協議会」 ・本文：「周辺自治体等との連携を図ります」に修正	○
15	図6「札幌の周辺自治体との連携事例」：これから周辺と連携すべき内容を挙げることもできる。例) コリドー、河川生態系、外来種対策、希少種保全、渡り鳥保全など	・図6では具体的な連携の形の紹介を意図しているので、現在行われているものの中で事例を記載	
15	図6「札幌の周辺自治体との連携事例」：外来種対策を挙げられないか。(アライグマやウチダザリガニの駆除事業など)	・該当事例なし ・「茨戸川清流ルネッサンスⅡ地区協議会」を記載	
16-17	表1「4つのゾーンとそれらをつなぐ生態系」：表だけでなく、ゾーニングの図も入れた方がよい	左記のとおり修正 ・17ページに図7「ゾーン」を掲載	○
17(22)	図7「ゾーン」：位置関係が分かりやすくできないか。	市役所・区役所などのランドマークを記入。	○
18(13)	表2「生物多様性に関する世界と日本の動き」 ・「第二次生物多様性国家戦略」を「新・生物多様性国家戦略」にする。 ・「生物多様性国家戦略 2010 策定」を入れる。 ・2012「COP11（インド・ハイデラバード）」を入れる。	左記のとおり修正。	○
第3章 札幌市における生物多様性の現状と課題			
21(19)	図9「地勢図と都市計画区域」：位置関係が分かりやすくできないか。目印となる施設や、周辺の市名、豊平川を入れるなど	・市役所と区役所を記入。 ・水脈を削除して豊平川のみ表示 ・「 <u>4つの地勢</u> 」という本文の表現にあわせて「丘陵・台地」をまとめて表示。	○

※括弧書きの頁番号は、第5回会議時点の頁番号。

頁	意見	対応	反映
22-23 (20)	図 10「土地利用の変化」：図が小さくて分かりにくい。	・図を拡大し、2ページにわたって見開きで掲載	○
22-23 (20)	コラム⑦年代の立て方などについても分かりやすくしてもらいたい。図 10 の各年代の表現と文章の頭出しを統一するなど工夫が必要	各年代の図ごとに説明文を併記	○
25(23)	図 12「ゾーンと生態系の分布状況」：「ア生態系の多様性」の本文の下に記載した方がよい	左記のとおり図の位置を変更し、図 7「ゾーン」の縮小版を凡例として追記	○
26(24) ～	各生態系の代表的な樹種や生物などの詳しい情報を資料編に記載する必要がある。	資料編に掲載(p86～90)	○
26(24) ～	生態系の写真はテーマに応じて見直した方がよい。	写真の変更 ・自然林：円山原始林の差し替え ・二次林：宮丘公園を有明の滝に	○
27(25)	人工林の説明：適切に管理すれば林床もある程度は多様性が保たれるので、適切な管理が必要という表現に変えた方がよい	以下の文章を追記 ・「…樹種が単一で、適切な管理をしなければ林床植物が少なくなるため、生態系の構成種が…」	○
31(29)	外来種の写真：アライグマは尾も入れて全身を、オオハンゴンソウは花に加え葉が写ったものの方がよい。	アライグマの写真：現在確認中 オオハンゴンソウの写真：葉が写ったものを掲載	○
33(31)	遺伝子の多様性：できるだけ野生生物にシフトしたもので表現できたらよい。	野生生物についてオオルリオサムシのほかに、適当な事例がなく、伝統品種について札幌黄の事例を紹介	
35(33) ～	各ゾーンの特徴：「現状」は人為的な状況なので、先に「主な生態系」を述べてから、それがこういう状況になっているという「現状」を述べる流れにした方がスムーズにいくのではないか。	左記のとおり修正を試みたが、現状の説明の中に主な生態系以外の内容も含まれるため、先に「現状」の説明を行ったうえで、現在の「主な生態系」を紹介した方がよいと判断	
36(34)	山麓ゾーンの「現状」： 「それ以降は伐採が行われなくなると考えられます」という表現は断定的に述べた方がよい。	「それ以降は、ほとんど伐採が行われなくなりました」に修正。	○
36(34)	山麓ゾーンの「主な生態系」： 「樹林地」という表現がここだけ出てくる。自然林や二次林など、用語の定義を整理して使い方を統一した方がよい。	用語を「自然林」と「二次林」に統一 ・「原始林」を「自然林」に修正 ・「樹林地」を「自然林」又は「二次林」に修正	○

※括弧書きの頁番号は、第5回会議時点の頁番号。

頁	意見	対応	反映
37(35)	市街地ゾーンの「現状」：「高い環境負荷の集中が見られる」の「集中」は不要。また、「湿地環境が広がっていたと推察されますが」の「推察」も不要。	左記のとおり修正	○
39(37) 40(38)	各ゾーンをつなぐ生態系 ・川がメインになっているが、緑とのつながりも重要。 ・川と緑をつないでいくという考え方を 出していった方がよい。	(4)課題の「各ゾーンをつなぐ生態系」に、「 <u>また、河川のほか、公園・緑地や街路樹、農地などにより、水と緑のネットワークを形成し、生息環境や移動経路などの連続性の確保を図っていく必要があります。</u> 」を追記	○
40(38)	各ゾーンをつなぐ生態系 ・緑の回廊は、野生生物や外来種の通り道になるおそれがあり、さらなる人とのあつれきを生じるという考え方についても、触れてもらいたい。 ・ネットワークの重要性と野生鳥獣とのあつれきの両建てで書けないか。	・ p 56「各ゾーンをつなぐ生態系の望ましい姿」で、連続化に伴う負の影響として「野生生物とのトラブル」を記載 ・ 施策の柱3「継承する」でも触れている（p 63最後の3行）。 ※ p 40での両論併記は、方向性が分かりづらくなるため、現状を踏まえた方向性は「ネットワークの形成」としたうえで、上記のとおり「望ましい姿」や施策段階での留意点として記載。	○
41(39)	外来種対策：イラストが分かりにくい。写真又は特徴を描いてはどうか。	「外来種被害予防3原則」の図に変更	○
41(39)	遺伝的攪乱対策：イラストの意味が分かりにくい。	イラストに説明文を付記	○
42(40)	コラム⑩「外来種って何ですか？」： 図 19 の字が小さい。文章も少し硬い	図 19 を拡大し、本文を修正	○
42(40)	コラム⑩「外来種って何ですか？」： セイヨウオオマルハナバチ ・盗密について記載してはどうか。 ・生息範囲について、平成20年度末のデータは古いと思う。フラワーソンのデータは使えないか。	・盗密について追記 ・札幌市内での確認があるという記述にとどめて、確認市町村数に関する記述を削除 ※春の寒気のためか、今年のフラワーゾーンで確認された数が非常に少ない状況であったため。	▲
43(41)	科学的知見の蓄積：現状と課題の記述を厚くすべき。どのような調査がされて、どのようなデータがあり、今後どのような調査が必要かを述べる。	左記の意見に沿って本文を修正	○

※括弧書きの頁番号は、第5回会議時点の頁番号。

頁	意見	対応	反映
43(41)	科学的知見の蓄積：基礎情報を蓄えるしくみが重要であり、蓄積と運用だけでなく共有を図っていくことも記載すべき。	「的確なデータの運用及び共有ができるような形で情報を集積していくしくみが求められる」ことを記載	○
44(42)	野生鳥獣との共生：「共生」とするのであれば、まず、共生の現状として触れ合っている状況などを書くべき。	「現状」の冒頭に「 <u>札幌市内では、森や川など様々なフィールドで、魚釣りや虫とり、バードウォッチングなど、自然や生き物とふれあう活動が行われています。また、円山動物園やさけ科学館など生き物とのつき合い方を学ぶことができる施設もあります。その一方で、市街地などでは…</u> 」を記載	○
44(42)	野生鳥獣との共生：人の居住地の拡大があつれきにつながっているということを書いてもらいたい。	「現状」の8行目に「人の居住地の拡大などに伴い」という説明を追加	○
45(43)	札幌市の施策：札幌市の組織体制について、全体の方向を誘導しながら、体制を整えるニュアンスが欲しい	「課題」の2行目末尾に「 <u>…体系化するとともに、環境マネジメントシステムの活用などにより、庁内連携の充実を図り、総合的に施策を推進…</u> 」を記載	○
45(43)	図 20「札幌の施策事例」：事例の写真や文字の大きさに注意	写真の大きさに配慮しつつ説明文を拡大	○
46(44)	アンケート結果が見づらいので配色を変えられないか。同色系は避ける	配色を変更	○
47(45)	多様な主体の連携：NPO や市民団体の活動についての評価がない。施策のところではそれなりに入っているが、現状と課題の中でも少し触れておくべき。	<ul style="list-style-type: none"> ・「多様な主体によるさまざまな活動は、希少な生き物や生息環境の保全、情報の収集や発信、市民が自然とふれあう機会の創出、伝統文化の継承など、札幌市の生物多様性の保全や普及啓発において大きな役割を果たしている」ことなどを記載。 ・事業者の取組状況についても、アンケート結果をもとに追記 	○
47(45)	多様な主体の連携：博物館活動センターや大学が拠点にならないか。特に博物館は大きな拠点になる。	「札幌市には、環境プラザや <u>博物館活動センター</u> 、 <u>さけ科学館</u> など～」と修正	○
47(45)	多様な主体の連携：各団体の活動を紹介してはどうか。写真が判りづらいので団体に提供していただき解説をいれてはどうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の団体の事例を紹介する場合、公平性の面から事例募集などの手続きを経たいが時間的猶予がない。 ・写真に解説を付記 	▲

※括弧書きの頁番号は、第5回会議時点の頁番号。

頁	意見	対応	反映
48(46)	法令等による保全：「現状」での低地の記述に対応して、「課題」にも、「法令等の網がかぶっていないところに関しても必要な保全の努力をする」という表現があった方がよい。	「 <u>低地ゾーンのように指定を受けていない地域でも保全を推進していく必要があります</u> 」を記載	○
48(46)	図 23 「法令等による保全の指定状況」：地図を大きく分かりやすくできないか。	地図を若干拡大	○
49(47)	図 23 「法令等による保全の指定状況」：表 4 に記載されている学術自然保護地区、自然景観保護地区、記念保護樹木が地図にない。	記念保護樹木に関しては、規模が小さいため地図には反映できなかったが、その他 2 地区に関しては地図上に追加記載	○
49(47)	表 4 「法令等による保全の指定状況」：市外に連続するものは、括弧書きでよいので、全体の面積も入れた方がよい。連携ということも含めると札幌だけの問題ではなくなってくる。	国立・道立公園に関して、全体の面積を記載	○
49(47)	表 4 「法令等による保全の指定状況」：「○○など●箇所」のように具体的地名を入れた方がイメージしやすい。	地名等を追記	○
50(48)	表 5 「課題ごとの方向性一覧表」：「各ゾーンをつなぐ生態系」に、河川だけでなく、グリーンベルトも含めて書いた方がよい	「河川（各ゾーンをつなぐ生態系）→各ゾーンをつなぐ生態系」と変更し、「方向性」に「水と緑のネットワークの形成」を追加	○
第 4 章 推進する施策			
52 (51)	基本認識：冒頭の文章が分かりにくい。	冒頭の文章を修正 ・札幌市としての基本認識を示す理由を簡略化	○
52-53 (51-52)	基本認識：基本認識 1, 2, 8 をもとに目標が立てられていて、その他の 3 から 7 はどのように活かしていくのかが、分かりにくい。	第 4 章の構成を次のとおり変更し、「1 基本認識」の中で、「目標設定にあたっての基本認識」と「施策を展開する上での共通の基本認識」に分けて記載 <u>1 基本認識</u> ・ <u>目標設定にあたっての基本認識</u> ・ <u>施策を展開する上での共通の基本認識</u> <u>2 目標</u> 3 施策の方向性 4 進行管理	○

※括弧書きの頁番号は、第 5 回会議時点の頁番号。

頁	意見	対応	反映
56(54)	望ましい姿：「河川」について述べられているが、「各ゾーンをつなぐ生態系」として、河川以外の、生態系をつなぐ望ましい姿も含めて書いた方がよい。	・水と緑のネットワークにより まちが包まれているイメージを記載 ・連続化に伴う負の影響として、侵略的外来種の拡大や遺伝的攪乱、野生生物とのトラブルを挙げ、それらが抑えられている状況を記載	○
56(54)	望ましい姿：外来種対策や遺伝的攪乱対策についても簡単でよいから触れておいた方がよい。		○
57(55)	生物多様性の「利用」という表現は、誤解を受ける可能性があるので、「活用」とした方がよい	左記のとおり修正	○
58(56)	施策の柱1「理解する」： イラストの意味が分からない	「環境プラザ」と「博物館活動センター」の紹介に変更	○
59(57)	施策の柱1「方向性4の想定される取組」に「生物多様性に配慮した農業の推進」とあるが、農業だけでなく林業も入れるべき。	「生物多様性に配慮した一次産業の推進」に修正	○
62(60)	図24「段階的な生態系保全・創出」： イメージが分かりにくい	本文中に、図24の説明に相当する文章を追記	○
63(61)	施策の柱3の方向性2「野生生物との共生」については、第3章での議論と同様、「トラブル」に変更するか、脈絡とれば「共生」のままでよい	原案のとおり	○
63(61)	施策の柱3の方向性3「歴史的文化的資産の継承」の説明文と「想定される取組」のシティプロモートが繋がらない。	「方向性」の説明文と「取組」の記述内容を修正	○
64(62)	・「自然との触れ合いの充実」が、施策の柱「1理解する」にあって、「4利用する」でも再掲されているので、分かりにくい。 ・「活用」という言葉が何を意味するのかがもう少し整理されていた方がよい。	再掲を削除し、新たに「自然を活かすライフスタイルの推進」を施策の方向性1として記載	○
65(63)	図25「ビジョンの体系図」 ・分かりづらい。イメージができない。 ・目標が実践行動の中ではなく理念の下に来る方が分かりやすいと思う。また、図の説明も文章で記載した方がよい。	図を簡略化し、あわせて図25の説明を本文中に記載	○
66(64)	重点取組とビジョンの進め方：施策の柱2「協働する」を重点的に進めていく理由が書かれていない	「2協働する」を重点的に進めていく理由を追記	○

※括弧書きの頁番号は、第5回会議時点の頁番号。

頁	意見	対応	反映
66-67 (65)	表6「ゾーン別の取組例」 ・ここに載せるのは、あまり適当でないようなものもあると思うので、精査してもらいたい。 ・山麓ゾーンの2番目の内容は「森林ボランティア」を指していると思われるが、必ずしも在来生物の生息環境を創出するために行われているわけではないので、その辺の表現をあらためて検討した方がよい。	・山麓ゾーンの2番目：「在来生物の生息環境を創出する」を「生き物の生息環境を保全・創出する」に変更 ・市街地ゾーンの2番目：「保全活動をNPO等の活動団体等から募集して取り組む」を、「保全活動に取り組む」に変更	○
66-67 (65)	表6「ゾーン別の取組例」 現在の取組例を出すのであれば、もう少し具体化するか、又は、今後必要なことや目標にするのであれば簡潔にした方がよい。	・現在行われている、具体の事業名などを追記（目標としての記載は、表の意図と異なる。）	○
66-67 (65)	表6「ゾーン別の取組例」 施策の区分の「○」の意味がよく分からない。「○」が多くあれば、現在すでに十分な取組が行われているととれる。「理解」「協働」から始めるという記述と、表の整合がとれていない。	・「○」は、例示した取組の性質が、どの施策の柱に該当するかを表しており、活動規模を表しているものではないので、十分な取組が行われているという評価はできない。 ・柱の区分に関する表の見出しを「該当する施策の柱」に修正	○
68(66)	札幌市の行動例：生物多様性に関する調査研究の支援、あるいは、働きかけについて記載できないか。	「大学などとの連携・協働により調査研究を進める」を追記	○
69(67)	市民の行動例：「旬のもの、地のものを選んで食べる」は別の表現の方がよいのでは。	「旬のものや <u>北海道産の食材</u> を選んで食べる」に変更	○
70(67)	活動団体の行動例：「植樹や自然体験…」の植樹はどうか。植樹も一つの方法だが、「自然復元」など何かよい言葉があるかと思う。	「 <u>植樹・間伐等の手入れ</u> や自然体験…」に変更	○
70(68)	事業者の行動例：「情報を開示する」を「情報を開示・提供する」としてもらいたい。	左記のとおり修正	○
70(68)	事業者の行動例：市内の中小企業が、自分たちがどのように取り組めばよいのかが分かるよう、もう少し具体的な取組事例を挙げてみてはどうか	行動例に具体的事例を追記	○

※括弧書きの頁番号は、第5回会議時点の頁番号。

頁	意見	対応	反映
72(69)	進行管理：「継承する」にどれだけ緑地が増えたか、どれだけ保全地域があるかなど、増やす努力がどれだけされたかを入れた方がよいのではないか。	・緑地面積等は、他の個別計画において目標設定されており、本ビジョンでは目標としての設定は行わないが、生物の確認種数に大きく影響するファクターとして、定期的に把握していく。	
72(69)	進行管理 ・簡素すぎる。市の取組の中で具体的にかける数値目標はないか。2020年の見直し時期までどう進めていくかの目標があったほうがよい。 ・ある程度の目標がないと、見直そうとしても何を見直したらよいか分からない。ある程度具体的な目標がほしい。	・数値目標に関して、現状値（2011年度）と目標値（2020年度）を設定	○
73	鳥の写真を増やせないか	資料編の表紙にチュウヒを採用	○